

岩手県一関市（国内 24 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生施設に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 5 月 12 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 施設の周辺環境

- ① 当該施設は、多様な動物種を展示用として飼養する観光施設で、利用者は施設内車両または自家用車を利用して、施設内を移動して動物を観察できるようになっていた。
- ② 施設の周囲は、森及び草地等に囲まれていた。
- ③ 施設から 2.5km の距離にあるため池では、カルガモが 3 羽確認された。
- ④ エミューとだちょうはそれぞれ 2 か所で飼養されており、いずれも、1 か所は他の動物との集団飼育（パドック）、1 か所は各 1 個体みのみの単独飼育（展示舎）であった。いずれも屋根付きの小屋は設置されているが、基本的にフェンスで囲まれた野外で飼養されていた。エミューの飼育している区画に衛生管理区域は設定されていなかった。

2 通報までの経緯

- ① 5 月 5 日、パドックで飼養されるエミュー 1 羽の死亡を確認したが、施設の本社の獣医師にも相談し、頸部皮下に広範囲のうっ血がみられたことから、フェンスへの衝突等による事故と判断した。また、施設の従業員が簡易検査を行ったところ、陰性であった。
- ② 5 月 9 日に、パドックの 1 羽にふらつきを認め、10 日朝に死亡を確認。別の 1 羽でもふらつきを認め、10 日午後に死亡したため、本社の獣医師に電話で相談し、家保へ通報した。
- ③ 5 月 11 日に家保が立入し、5 日と 10 日の死鳥計 3 羽と成鳥 1 羽の検査を行ったところ、4 羽とも PCR 陽性となった。PCR 陽性となった生存個体は 12 日朝に死亡したが、それまでに臨床的な異状は確認されなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該施設では、飼養管理の従業員が 10 名おり、エミューは主に 2 名で対応していた。直近では 5 月 5 日と 10 日に死亡が確認されており、10 日の確認時は何らかの感染症を疑い同居動物への感染拡大防止のため、以降は 1 名が主に管理を行っていた。
- ② エミューとだちょうの管理担当者は分かれており、同日に同じ者が担当することはなかった。
- ③ 管理は基本的に朝夕の給餌と給水で、必要に応じて清掃を行っていた。

4 施設の飼養衛生管理

- ① 当該施設は、個人向けには原則土日祝を営業日とし、平日は学校等の団体向けに展示を行っていた。
- ② 施設内に入場する車両は、施設出入口、動物飼養エリアの出入口、家きん飼養エリアの出入口で消石灰帯による消毒を実施していた。
- ③ 施設によると、従業員は、施設外にある事務所または隣接の社員寮で施設内専用作業着に更衣し、事務所で専用長靴を着用していた。作業時には専用手袋を着用していた。
- ④ 従業員は、エミューの死亡が認められる前は、パドック及び展示舎入口に散布した消石灰帯で靴底を消毒していたが、専用長靴への履き替えや手指消毒は実施していなかった。

- ⑤ 従業員は、事務所からパドック及び展示舎までは、施設内専用車両で移動していた。
- ⑥ エミューのパドックは、約5 cm角のフェンスで囲まれた草地で、開放された小屋が設置されており、中に水飲み場と餌場がある。死亡確認以降は、小屋の入口を閉め、隔離舎として使用していた。
- ⑦ エミューのパドック内ではカンガルーが飼養されていた。また、だちょうのパドック内では、リヤマ、シマウマが飼養されていた。
- ⑧ エミューの展示舎は、約10 cm角のフェンスに囲まれ、小屋が設置されていた。エミューの展示舎に隣接するだちょうの展示舎は、約5 cm角のフェンスに囲まれていた。
- ⑨ 飼料業者は動物飼養エリアに入場しないが、施設出入口及び飼料保管庫付近で消石灰帯による車両消毒を実施していた。
- ⑩ 飼養動物への給与水は水道水だった。
- ⑪ 日々の作業の内容、家きん飼養エリア内への入場者等の記録は担当者が日誌に記載していた。
- ⑫ 小屋の中の除糞は2日に1回以上実施していた。搬出される糞及び敷料は、施設内専用車両で施設内の堆肥舎に運搬・集積し、その後、施設外の堆肥センターが回収していた。5月5日以降、堆肥の回収はなかった。
- ⑬ だちょうのパドックは、利用者が車両で通行できたが、車両で観察する際は、利用者が車両から降りることはなかった。エミューのパドックと、エミュー、だちょうの展示舎は、フェンス越しにのみ観察できるようになっていた。展示舎は、徒歩で観察できるようになっており、この際、フェンス越しに鳥に触れることも可能であった。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 従業員によると、施設周囲では、カラス、スズメ、キジなどの鳥類と、シカ、タヌキ、ネコ、ネズミが確認されたとのこと。調査時には、施設の周囲でハシブトガラス、ハシボソガラス、スズメ、キジなどの鳥類とネコを確認した。
- ② エミューのパドックでは、4月上旬及び5月上旬に各1羽の死亡カラスが確認されていたが、例年と変わらないとのこと。施設によると、エミューのパドックの北側の林には、カラスのねぐらがあるとのこと。調査時には、エミューのパドック上空でハシブトガラス、パドック内でスズメを確認した。
- ③ 施設によると、施設に隣接する草地に2月末から3月初旬ころまでハクチョウ類が5羽程度飛来していたとのこと。
- ④ 飼料保管庫には粘着シートが設置されていた。
- ⑤ 敷料は開口部を閉鎖できる倉庫内に保管されていた。